

マルテック(飯塚市)の林社長

「ナイスステップな研究者」に

文科省研究所 アジア人の積極雇用評価

れてうれしい。事業展開の弾みになる」と喜んで

いた。
マルテックは二〇〇一年、中国系マレーシア人の林さんら、アジアからの留学生四人で設立。現在はアジア各地から研究者八人を雇い、テレビ電話の音声認識ソフトを開発しているほか、同市のホームページ管理も請け負っている。

同研究所が選定した今年の表彰者は、京大教授や気象庁調査官など五部門で十組十三人。林さんは「地域・産学連携・イノベーション部門」で選ばれた。外国人の出入国手続きや資金調達を規制緩和する飯塚市の「アジアIT特区」を活用し、アジアから研究者を積極的に雇用し、同市とアジアの結び付きを強めたことが評価された。

六日には、会社を一緒に設立したインドネシア人のシボロ・

アノルドさん(三)と市役所に斉藤守史市長を訪問。林さんは「国内でも最先端の技術を開発し、IT都市・飯塚をアピールしたい」と喜びを報告した。



贈られた盾を手に表彰を喜ぶ林さん(左)とシボロさん

九工大情報工学部(飯塚市川津)の留学生が設立した情報技術(IT)のベンチャー企業「マルテック」(同市幸袋)の林維毅社長(三)が、文科省技術政策研究所の「ナイスステップな研究者」に選定された。全国でも最先端の研究者をた

たえる表彰で、林さんは「頑張った成果が認めら